

燦々

SANSAN
光り輝く

祝詞の読み上げの様子



特集 令和元年度 冬季組合員懇談会主要意見集約(Q&A)

JAとまこまい広域広報誌
燦々光り輝く
No.211



編集・発行

〒059-1693
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-272241 FAX 0145-271394
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2

令和2年2月10日
ホームページアドレス
http://www.ja-tomakomaikouiki.com
メールアドレス
info@ja-tomakomaikouiki.com

印刷 株式会社 須田製版

ロータリー等を装着したまま 公道走行が可能になりました!

ロータリー等の直装型作業機*を装着した状態のトラクターが、一定の条件を満たした場合に公道走行が可能となりました。周囲の方々への安全を第一に、注意して走行してください。

*直装型作業機:けん引タイプではない、ロータリー、ハロー、直装式ブームスプレーヤ、播種機等のトラクターに直接装着する作業機

Q 「一定の条件」とはどのようなものですか?

A 灯火器類、作業機の幅、最高速度、運転免許などの確認が必要となります。詳しくはお近くの農機販売店や、地方運輸局、地方農政局、(一社)日本農業機械工業会にご確認ください。

例えば灯火器類なら……

作業機を装着して**灯火器類が見えなくなる場合**
⇒お近くの農機販売店で、**灯火器類を増設**しましょう!



国土交通省 農林水産省

(一社)日本農業機械工業会

【お問合せ先】
農林水産省 生産局
技術普及課 03-6744-2111

http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/kodosoko.html



日農工 公道走行

<http://www.jfmma.or.jp/koudo.html>



問い合わせ先
JAとまこまい広域 経済部 機械燃料課
(代表)0145-27-2241(直通)0145-27-2346

詳細につきましては、JAとまこまい広域ホームページのお知らせにあります。1月17日投稿「農耕トラクタ公道走行について」掲載しておりますのでご参照ください。
JAとまこまい広域ホームページ <http://www.ja-tomakomaikouiki.com/>

令和元年度

開催日：令和元年12月11日～12日
出席者数78名(正組合員数944名 出席率8.3%)

冬季組合員懇談会主要意見集約(Q&A)



企画管理部

Q1. 役員に関して、女性参画を進める目的として女性参与が設置され、設置当初は次期において参与から理事候補となる説明がされていた。次期役員改選ではどのような対応となるかお聞かせ頂きたい。(吉小牧・厚真)

A1. 女性参画促進を推進するため、JAグループとしては女性2名以上、女性正組員比率25%以上を目標に掲げている経過にあり、当JAとしても女性参与と制度の導入をしました。女性役員の実現のためには地域の理解と本人の意思が重要であるため、将来の役員就任が望ましいものの必須ではないと見解を変更し規程も改正しております。

Q2. 昨年、当JA金融部門で不祥事が発生したことで、資金運用制限などにより組合員に迷惑が掛かっているのか。また、部門は違うが最近他のJAでも同様の不祥事が発生している。このことについて、常勤の考えをお聞かせください。(吉小牧・早来)

A2. この度不祥事再発でJAバンクのレベル格付けを受け、一部の融資に制限がかかりましたことをお詫び申し上げます。事前の準備、組合員の皆様のご協力を得て、金銭的な負担のかかるご迷惑はかけない対応をしておりますのでご理解をお願い致します。本年1月20日には資金制限の解除は受けましたが、引き続き改善JAとして再発防止策の定着に努めて参ります。

Q3. 不祥事再発防止検討会設置要領の具体的取り組み事項について詳しく教えてほしい。(穂別)

A3. 委員会は理事参事を委員長として金融、管理、内部監査部門の担当で構成し、毎月信連、農林中金、中央会の指導を受けながら再発防止策の進捗管理を行っています。内容的には①役

営農部

Q1. 鳥獣対策や草地等への人の侵入防止に対する看板等設置など喚起をお願いしたい。また、復旧事業等の鳥獣対策はどのような基準であるか。(白老・早来)

A1. エゾシカ侵入防止対策としては、電気柵又はシカ柵設置が有効な手段となりますし、アライグマの捕獲罠(箱罠)は町が保有しております。補助事業等は、各行政が窓口となっておりますのでお問い合わせ下さい。熊については、人命優先となりますので町を通じて猟友会と駆除方法を慎重に取り進める必要があります。注意喚起看板については、個人所有地に設置する事が基本となりますので看板等については必要に応じて検討して参ります。また、復旧事業等の鳥獣被害防止対策関係事業については、行政(市・町)が主体となって事業を実施しております。現在の設置内容や地域における鳥獣被害防止計画の策定、生産者の合意形成・協議会設置など基準がありますので、詳しい内容については行政との協議となります。

Q2. 震災支援について、経営体育成支援事業に該当しなかった被害に対して、JA等の支援状況をお聞かせください。(厚真)

A2. 当JAについては、中央会救援金として全国の農業者・関係機関、生協より約2億円の救援金を頂きました。一昨年発生した胆振東部地震並びに台風21号の被害に見舞われた当組合員全戸に対し一律に救援金をお支払いしました。また、国・市町等から支援を受けられない被害復旧等にも支援しており、総額で生産者向けに約1億円の活用を行う事としております。なお、厚真町では災害による掛かり増し経費として町単位事業も行われています。

Q3. 土壌診断について、施肥基準よりどこまで肥料を入れられるかを知りたい。(追分)

A3. 施肥設計について、土壌分析結果に基づく地域の標準的な施肥基準で設定しております。気象や栽培体系など諸条件を考慮した施肥指導については、個別対応となりますので支所を通じてご相談下さい。必要に応じて普及センターや本所クリーン農業係も対応致します。

員のコンプライアンス研修、②常勤理事と職員の意思疎通の活性化、③内部監査機能の強化、④現金取り扱い業務のチェック機能の強化、⑤一般的事務の堅硬化などを具体的に定着するよう取り組みを進めております。

Q4. 土曜日営業について、冬期間のみの営業廃止ではなく年間を通して考えたほうがよいのではないかと。(厚真)

A4. JAは組合員の生産サポートが第一であります。働き方改革などの要請もあり、農業生産者のご理解を得ながら冬期間の土曜日にとどまらず、休業の拡大を図って参ります。

Q5. 総代会の日程について、春作業の関係もあり4月10日前頃に開催できないものか。書面議決で済ますのではなく、生の声を聞くことが大事だと思つから、出席しやすい日程を考えて頂きたい。(厚真)

A5. 貯金額200億円以上のJAは公認会計士監査の受監との関連や様々な制約がありますが、可能な限り4月前半に開催できるように努めます。

Q6. 組合員懇談会の出席者が少ない原因を調査してより多くの組合員が出席できるようお願いしたい。また、懇談会自体が説明を聞くだけの場で、決まったことに対して組合員の意見が通らないような懇談会になっている気がする。意見を取りながら農協改革が進むようになれば、もう少し出席者が増えるのではないかと。(厚真)

A6. JA運営にあたり、組合員の直接的な声はなくてはならないものです。懇談会や組合員訪問並びに日常の推進活動中から情報交換を活性化して参ります。

Q7. 農協改革の中で准組合員の農協利用が正組合員の利用を阻害しているようなことが言われている。准組合員の利用も農協を支えていると思うがいかなものか。(厚真)

Q4. 令和2年度の農業予算の中で、農林水産物・食品の政府一体となった輸出強化の予算が増額されている。今後輸出が増えていくことを考えるとGAPの推進が必要ではないか。JAとして勉強会などを行う予定はあるのか。(穂別)

A4. 職員についてはGAP責任者講習会など各研修会に参加を進めております。しかし、GAP認証取得には生産者の取組や体制整備が必要であり、生産管理や輸出など今後の販売戦略上の必要性については十分協議の上取り進めて参ります。また、組合員に対する説明会等は今後の状況を判断しながら取り進めて参ります。

Q5. 厚真町にあるRTK基地局をJAが買い取る話を聞いたが、その進捗状況と穂別地区における活用方法や内容について教えてほしい。(穂別)

A5. 厚真町に設置しているRTK基地局について、令和元年4月より運用が始まった「ホクレンRTKシステム(ホクレン一元管理による)」に参画できないか現在協議中となっております。また、RTK基地局は厚真町の所有物である為、今後の所有や運用・維持費など協議を進めており早期に使用できるよう調整しておりますので、決まり次第お知らせ致します。

農産部

Q1. ビートの運搬について、遅れるとの連絡があつたが、輸送が早まつたり順番が入れ替わりがあつた。(追分)

A1. 天候・作柄・圃場状況等により順番が変更となる場合がありますが、変更については連絡を徹底して参ります。

Q2. ビート堆肥用の粉殻が施設にない場合がある。(追分)

A2. 施設での粉摺り状況により要望に十分応える量が無い場合もありますので、施設担当者との連絡を密にお願い致します。

Q3. 施設利用料金等の改正検討について、JA他支所・他JAの利用料金設定について詳しく教えてください。(穂別)

A3. 厚真施設における他支所組合員利用については5%割増となり、他JAの小麦利用については本乾のみとし@576円(税別)となります。

A7. 農協改革の中で准組合員の利用制限の議論もありましたが、現在では准組合員のJA事業利用が地域に必要な機能であり、正組合員の活動を妨げるものではないという見解となっております。引き続き正確な情報発信を続けて参ります。

Q8. 冬期間は穂別支所金融店に手すりがないと怖いとの声を聞いている。農業センター正面入り口から金融店の中にかけて手すりを設置してもらいたい。またスロープの設置も検討頂きたい。(穂別)

A8. ご指摘を受け設置を行います。今後ともご利用をお願いします。

内部監査室

Q1. 不祥事防止のため厳格に行うのは分かるが辞めていく職員も多い。これからも退職者が出てくるのではないかと。(早来)

A1. 不祥事の有無に関わらず社会全体として中途退職者増加の傾向にあります。採用前の段階・入職してからの人材育成プログラムも体系化しながら、組合員と共に職員を育成する環境を整えて参ります。

共済部

Q1. JA共済にはドローンに対する商品はあるのか。無いのであれば今後これに対応できる商品の提供など考えているのか。(穂別)

A1. JA共済にはございませんが、JAグループ共栄火災海上保険株式会社にて、農業散布用ドローン総合保険を販売提供致しております。商品内容等につきましては、JA共済窓口にお問い合わせ願います。

Q4. 穀物施設は整備積立金を含めた利用設定とされるが、野菜については利用料金を別に徴収するのか。(追分)

A4. 野菜については集荷場等の施設利用料の設定がありますが、施設整備積立金の設定はありません。

Q5. 働き方改革の法律が出来て、担当者も残業が出来なくなっているが、繁忙期等の受入時間は考えてほしい。(早来)

A5. 働き方改革関連法の施行により時間外労働の上限規制や有給休暇の確実な取得等が法制化されました。繁忙期における農産・菜部門の職員の勤務は長時間となることから、労務改善を図りつつ、生産者の負担とならないよう、理解・協力を得ながら対応して参ります。

Q6. 米の出荷について、納屋の関係で庸車を利用しているが、今年は搬入時間が決められたほか厚真大橋の工事もあり、時間間に合わず搬入で出来ないことがあつた。決まりはあると思うが臨機応変な対応をして欲しい。(厚真)

A6. 米の受入については受入実施要領に沿って行っておりますが、突発的な事案については生産者と連絡を取りながら可能な限り対応します。

畜産部

Q1. JA販売事業で畜産販売額が全体事業の約半数を占める中、今後の畜産振興対策の方向性について伺いたい。また、新規就農及び複合経営として和牛経営の推進をしてはどうか。(白老)

A1. 生産組織等との協議検討にて、より充実した畜産振興に努めて参ります。また、新規就農対応や経営転換等に向け継続的なサポートにも努めて参ります。

Q2. 増頭により人手不足が発生するためヘルパー制度について今後検討して頂きたい。(白老)

A2. 労働力負担軽減対策も含め、ヘルパー制度の生産者需要の確認をしながら検討して参ります。



広域

今年の豊稈と安全へ祈り捧げる

豊稈祈願祭を執り行う

J Aとまこまい広域は新年を迎えた1月7日、豊稈祈願祭が厚真本所にて執り行われた。(例年は厚真神社で執り行われているが、地震により神社へ大きな被害が発生したため、昨年に引き続き本所で執り行われた。)



▲豊稈祈願祭の様子



▲玉串を奉納し、豊稈を祈願する宮田組合長

常勤役員、地区担当理事、参事及び各部長、支所長ら約30名が出席した祈願祭では、宮司から令和2年の豊稈を願う祝詞が読み上げられた後、お米や果物などが供えられる祭壇へ宮田組合長をはじめ、堀専務ら順々に玉串を奉納し豊稈祈願祭を終えた。祈願祭の中で宮田組合長は「昨年は災害のない年を送ることができましたが、実りある秋を迎えるにはもう一息といったところでした。今年は五穀豊稈と家内安全をお祈りし期待したい」と述べ今年の豊稈を祈願した。

広域

第68回全道JA青年部大会

実績発表・1分間CM「優秀賞」受賞

12月5日〜6日にかけて、札幌パークホテルにて第68回全道JA青年部大会(北海道農協青年部協議会主催)が、大会テーマ「Exciting Innovation」を掲げ、全道各地から盟友約800人が一堂に集い華々しく開幕した。

初日に行われた農業や青年部への思いを話す「青年の主張大会」の最優秀賞には、JAびえい青年部の本山さんが受賞。「青年部活動実績発表大会」では、JA中札内村の山本さんが最優秀賞をそれぞれ受賞した。その他に全体懇親会では純



▲実績発表において「優秀賞」を受賞した中澤部長



▲広域青年部参加者による集合写真

農Boyオーディション、アムレスリング大会が開催され、日胆地区を代表して、当青年部から実績発表大会に中澤青年部長が出席し優秀賞を受賞した他、農業農村の魅力を発信する1分間CMでは、穂別支部が作成した作品が農人部門において優秀賞を受賞した。懇親会でのアムレスリング大会へ宮崎支部長(穂別支部)が参加し会場を盛り上げた。

翌日の本大会には、表彰式とともに大会宣言が採択された他、(株)セコマ丸谷社長が、演題「地域に密着した経営理念と北海道の農畜産物に求めるもの」として基調講演を行い、農村ホームステイ事例発表を行い閉幕した。

広域

第13回農業総合研修会

農林水産省との意見交換会

胆振管内のJAとまこまい広域は昨年12月26日、厚真町の総合福祉センターにて「第13回農業総合研修会」を開き、生産者をはじめ各関係機関など総勢約130人が集まり開催された。

研修会には昨年の森結有花アナウンサーに引き続き、HBC北海道放送よりアナウンサー・気象予報士の近藤肇氏(平日午後3時44分〜午後7時に放送の「今日ドキ」の中で天気予報コーナー担当)と農林水産省大臣官房国際部国際経済課長の三野敏克氏が講師を務めた。

近藤アナウンサーは「命を守る、畑を守る、天気予報テレビでは伝えきれない利用のコツ」と題して、「荒れた天気」



▲近藤アナウンサーが質問に答えている様子

「大荒れ」など天気予報士が使う言葉の違いで危険度を表現していることを説明したほか、地球温暖化の影響で北海道は100年で平均気温が1.5℃上昇し、このまま温暖化が進めば空気中の水蒸気が増えることで雨量が増加し、北海道でも短時間強雨(ゲリラ豪雨)の頻度が増加が見込まれると報告した。

三野課長は「貿易を巡る情勢と国内対策等」と題し、今年10月に署名し来年の1月に発行する「日米貿易協定」について講演を行った。研修会終了後には、北海道農政事務所所長やJAの役員、生産組織、青年部、女性部の代表者らと意見交換を行った。今回の協定で関税の下がる畜産関係の組合員からは不安の声が挙げられるなど多くの意見が交わされ、三野課長は一つ一つの質問に丁寧に答え意見交換会は予定の終了時間をオーバーし終了した。



▲後段の意見交換会での様子

広域

省力化へ向けて!!

スマート農業冬季研修会及びフロンティア塾開催

胆振管内のホクレン苫小牧支所営農支援室主催による「スマート農業冬季研修会」がJAとまこまい広域フロンティア塾と合わせて1月9日、JAむかわ・JAびらとりと共に厚真町で開催した。生産者・JA職員・行政関係者ら約70名が参加し、「ホクレンRTKシステム」や新型ドローンの性能など最新技術を学んだ。

ホクレンから、トラクターの自動操舵に必要な機材や作業性を説明。厚真町では既に補正信号を中継するRTK基地局を設置しており、JAとまこまい広域の生産者に利用されているが、町とJAがホクレンシステムへの移行に向け検討中であると紹介。実現すれば、同基地局の広域運用が可能となり、近隣JAの生産者も低コスト利用が可能になると説明した。



▲最新機種のパフォーマンスや作業性を質問する生産者たち

また、ドローンは(株)エンルートより軽量コンパクトでバッテリー性能などが向上した「AC101」、ホクサン(株)からは衛星測位システムを利用した完全自動航行型「XAG P-30」を紹介した。それぞれ特徴を持つ最新機種のため、機材の展示ブースでは多くの参加者から機能や作業性について質問が寄せられ関心の高さを示していた。

ホクレン苫小牧支所営農支援室では、「今後も研修会を企画し、スマート農業の普及に寄与したい」と話した。

白老

白老牛と農産物に長い行列！

白老牛・農産物フェア大いに盛り上がる

去る12月14日（土）午前9時～11時に白老支所横駐車場にて「産地直売 白老牛・農産物フェア」が開催された。当日は天候にも恵まれ、安心・安全な白老牛、広域農産物を買求める多くの人たちが町内外から駆け付け、賑やかな声があちらこちらで聞こえた。

メインの白老牛は地域還元価格でA5ランク最高級の牛肉を提供。白老牛産直販売コーナーとしてステーキ用サーロイン、しゃぶしゃぶやすき焼き用にスライ



▲開場前から待ちわびた様子のお客様



▲白老牛を吟味する人たち

スされた肩ロース、焼肉用など用意し、白老産牛肉ハンバーグや白老牛コロッケ、ジギスカンなども好評だった。農産物販売コーナーでは、厚真産の花豆や黒豆などの豆類、追分産のコボウ、穂別産長いもなどを格安で提供。もち米にたんとうまいや雪瑞穂の新米に加え、おふくろ味噌や小麦粉などの加工品や農産物も飛びように売れた。年末のご馳走にとお目当てのものを手にした来場客はみな笑顔で会場を後にした。

追分

追分カンロ組合

創立40周年記念式典

令和2年1月21日「追分カンロ組合創立40周年記念式典」が追分農村文化センターにて開催された。

同組合は、昭和40年代末に前身である野菜出荷団体が古くから親しまれていた果実である「あじ瓜（カンロ）」作りに着目し、作付けがスタート。昭和56年に正式に追分カンロ組合が発足した。

式典で岩倉啓一組合長は「父の代から始まった、追分カンロ組合も無事40周年を迎えることができました。これも諸先輩方、各関係機関の皆様によるご指導、ご支援の賜で感謝申し上げます。追分産



▲40周年の挨拶をする岩倉組合長



▲集合写真

カンロも町の特産品として認められ、昨年オープンした道の駅「あびらD-51ステーション」では、カンロソフトの原料供給を行い大盛況の内に完売したと聞き、生産者としても嬉しい限りです。これから50周年に向け、いつもカンロを手にとつてくださる方々に、「美味しかった」と言っていただけのように更に良いカンロを生産すべく組合員一丸となつて歩んでいく所存でございます」と挨拶した。

早来

成長の糧に

青年部早来支部研修会開催

とまこまい広域農協青年部早来支部（今泉祐貴支部長）は昨年12月6日、「草地更新」と「GAP」の2つをテーマに研修会を開催した。今回の研修会は講師として、雪印種苗研究開発本部 牧草・飼料作物研究グループの横山研究員と、ホクレン 食品品質・

表示管理課の熊谷考査役を招き、基本編から応用編まで学んだ。草地更新の研修では、耕起前の除草剤散布による雑草防除の基本から、草地更新の重要性と詳細な手順まで、部員からの質問に答えながら生産者の目線に立つた研修を行った。



▲研修会風景

GAPの研修では、認証取得のメリットや認証取得の方法ではなく、各々の農業経営に潜んでいるリスクを発見し排除すること、一「持続可能な農業経営」を実現することや、「GAPをとる」ではなく、「GAPをすることでGAPにする」という内容で行った。この機会に自身の経営に繋げようと、部員からは実践的な質問も投げかけられ、有意義な研修会となった。

厚真

復興元年産大豆使用

無添加「おふくろみそ」仕込み

胆振管内のJAとまこまい広域女性部厚真支部では、広域オリジナル商品「おふくろみそ」の仕込みが昨年12月12日、19日にかけて、厚真町にあるJA加工施設で行われた。

同町産の大豆「ユキホマレ」と同町産の米「きらら397」を原料に、天然塩を使用した塩こうじで造る無添加の「おふくろみそ」は、昭和62年から現在の名称で本格的な販売をスタート。大豆を蒸す工程から米こうじを作る工程まですべてが手作業で行われ、多くのお客様に愛



▲みそ仕込みに使うこうじの原料お米の粗熱を取る作業



▲熟成の様子

される商品となっている。今年度は、昨年度より2・4トン仕込み量を増やす予定。1月にも2回目の仕込みが行われ、仕込まれた「おふくろみそ」は今年の11月初旬頃より各Aコープや各イベント等で販売される予定だ。みそづくり責任者の佐藤美奈子女性部長は「おふくろみその売れ行きが良く、昨年度より仕込み量を増やしている。重労働で大変な作業だがお客様に喜んでもらえるように丹精込めて仕込んでいるので、多くの人に食べてもらいたい」と話した。

次期役員選任に向け 「とまこまい広域農業協同組合役員推薦会議」が発足

昨年12月より役員選任に係る支所別推薦委員の選出及び地区別役員推薦会議が実施され、本年1月17日に各地区代表13名と理事会推薦1名による「とまこまい広域農業協同組合役員推薦会議」が開催されました。

委員長に選任した白老地区の大浦俊秋氏を中心に、役員選任までのスケジュールや地区推薦役員の枠組み、各支所の進捗状況確認など、役員選任に係る作業が進められております。

今回は、本所・支所の役員推薦委員の名簿及び今後の役員選任までのスケジュールについて掲載致します。

各地区役員推薦会議推薦委員名簿

地区名	推薦委員	備 考	地区名	推薦委員	備 考
白老地区（7名）	大浦 俊秋	委員長	厚真地区（35名）	宮下 重雄	委員長
	阿部 高幸	副委員長		木村 幸一	
	堀部 豊			池川 勝英	
	山下 廣司			浅野 美樹	
	井澤 佑介			堀田 昌意	
	大浦 夕輝			藤沢俊一郎	
	中村美智子			伴 美城	
苫小牧地区（6名）	及川 末男			田中 稔	
	野村 修	副委員長		本田 祐光	
	堀 勝			大垣 良昭	副委員長
	銚溝口牧場・溝口 憲昭	委員長		猪師 隆行	
早来地区（12名）	五十嵐貴満			南 正敏	
	今泉 祐貴			矢幅 隆	
	小西 和也	委員長		松下 周司	
	阿部 修一	副委員長		山本 孝	
	高林 優一			小泉 修	
	池田 直樹			高山 昌三	
	鈴木 悟			藤沢 富蔵	
	遠藤 貞男			桐木 政三	
	橋本 秀行			山口 理正	
	中西 拡幸			村田 久明	副委員長
	土田 和明			梅藤 正晴	
	大井 信弘			角田 長久	
追分地区（8名）	竹田 譲治			大捕 雅寿	
	富樫瑛一朗			斉藤 仁	
	高橋 康二			山崎 基憲	
	山田 晋也		穂別地区（15名）	星 保夫	
厚真地区（35名）	城宝 敏克	委員長		佐久間 剛	
	西島 隆行			板根 一司	
	中道 栄一			小岸 元気	
	谷口 龍治			佐田 正彦	
	戸津川 聡	副委員長		藤岡 茂	
	千田 栄一			深谷 孝	
	工藤 敏克			石崎 浩一	
	高橋 宥悦			菊地 英智	委員長
	石井 勉			清瀬 利一	
	佐藤 幸一			石崎 寛文	
	早坂 信一			上村 義昭	副委員長
	西村 忠彦			中村 則彦	
	森田 明央			三上 正吾	
	土居 元			田代 英孝	
	窪田 泰法				

とまこまい広域農業協同組合 役員推薦会議推薦委員名簿

地区名等	推薦委員	備 考
白 老 地 区	大浦 俊秋	委員長
白 老 地 区	阿部 高幸	
苫小牧地区	銚溝口牧場 溝口 憲昭	
苫小牧地区	野村 修	
早 来 地 区	小西 和也	
早 来 地 区	阿部 修一	
追 分 地 区	城宝 敏克	副委員長
追 分 地 区	戸津川 聡	
厚 真 地 区	宮下 重雄	
厚 真 地 区	大垣 良昭	
厚 真 地 区	村田 久明	
穂 別 地 区	菊地 英智	
穂 別 地 区	上村 義昭	
理事会推薦	林出 勇一	

今後の役員選任実施 スケジュールについて

月 日	実施項目	内 容
2月20日	第1回理事会	①学識経験理事(2名)の理事会推薦
		②学識経験常勤監事(1名)、員外監事(1名)の理事会推薦
		③女性参与の理事会推薦
2月26日	第2回役員推薦委員会	候補者の選任状況報告
2月28日	第2回理事会	①役員候補者の理事会承認 ②監事選任に対する同意の依頼
3月中旬	監事会	監事候補者の監事会承認
3月23日	第3回理事会	監事選任に対する監事の同意
4月上旬	役員予定者会議	
4月14日	総代会	役員の承認
	第4回理事会	役付役員の選任



未来の農業を支える青年部 JA常勤役員へ活発的な 質問・意見多数

胆振管内のJAとまこまい広域青年部は12月9日、厚真本所営農センターにて「JA常勤役員との意見交換会」を実施し、各支部より11名の青年部とJA役職員15名が参加した。



▲意見を述べる山田副部長

JAとまこまい広域女性部 JA常勤役員との 意見交換会

胆振管内のJAとまこまい広域女性部は1月20日、厚真本所にて「JA常勤役員との意見交換会」を開催し、女性部員をはじめJA常勤役員約24名が参加した。

開会に当たり佐藤美奈子女性部長は「昨年度は震災によ



▲意見交換会の様子



▲冒頭挨拶をする中澤部長

開会に当たり中澤和晴青年部長は「今回大事にしたいことは対話をしっかりと行いたいということです。青年部のみなさんは、批判ではなく提案をお願いします。農家があつてのJA、JAがあつての農家であり、私たち一心同体だと感じております。この先、私たちがどのようにしたら良くなれるのかをこの場で考えていけたらと思っています」と今後の未来を担う若者たちを代表して挨拶した。

意見交換会では山田副部長らが、昨年の震災によって全壊した施設の見通しや、今後のJAの運営の仕方など、様々な質問・意見が交わされた。中には「今後の未来を担うJA若手職員との交流が持てる場を設けてはもらえないか」という意見も挙げられた。

意見交換会終了後には、懇親会が設けられ日頃では中々話すことのない青年部員とJA常勤役員との交流が図られた。



▲佐藤女性部長挨拶

り意見交換会はできませんでした。今回は、女性部からの意見・要望もありますが、JA側から女性部へ対しての意見・要望もあると思いますので有意義な意見交換会ができればと思います」と挨拶した。

部員からは「JA役員女性理事登用において、現在のJAの状況と今後の見通しなどを聞きたい」と意見が挙げられたほか、「胆振東部地震により穂別地区のAコープ施設的全壊判定に伴い仮店舗で面積を縮小して続けているが今後の見通しはどうか」など新たな施設建設に伴い設計図を見ながら意見を交えるなど数多くの意見・要望が挙げられた。

JA側からは「女性部と青年部はJAにおいて両輪を担っているとと思っています。これからもお互いに情報交換をしながら活動していければ」と話した。



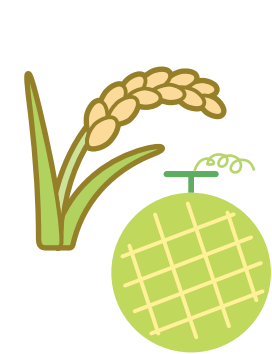
大規模経営を目指す

平成5年6月15日に旧穂別町仁和(現・むかわ町穂別仁和)で梅藤勝さん、良美さんの長男として生まれる。

高校卒業後、学校法人吉田学園専門学校北海道自動車整備大学校に進学。卒業後の平成26年4月に就農する。

農業は身近なもの

「子供の頃から農作業の手伝いをしていて、元々継ぐつもりでいた」と話す元気さん。「専門学校に行っているときも含め、農作業は身近なものだったので、就農して大変だったという記憶はない」と就農当時を振り返る。



今年で就農6年目となる元気さんの家では、水稲23ha、メロン30棟を作付けしており、外国人技能実習生を受け入れながら経営している。

将来の展望について

就農してすぐに青年部穂別支部に入部し、右も左もわからない中、先輩方から研修会や交流会等の様々な青年部活動に誘われ、非常に助かったという。「青年部活動で様々なことを経験させてもらった。今まで以上に青年部を楽しく盛り上げていきたい」と話す。

また、地元の消防団にも所属しており、今年の夏に開催される消防操法訓練大会出場に意欲を燃やしている。

最後に「現状23haの水稲を40〜50haに拡大し、大規模経営をしたい」と将来の夢を熱く語った。

ホクレン 南北海道黒毛和種市場 広域農協支所別取引成績(1月) 令和2年1月9日

	性別	成立頭数 (頭)	価格平均 (円)	平均日齢/体重 (kg)	平均kg/単価 (円)
白老	去勢	39	709,974	1.076	2,201
	雌	19	657,526	1.019	2,044
苫小牧	去勢	3	698,000	1.077	2,202
	雌				
早来	去勢	13	760,692	1.177	2,218
	雌	10	656,500	1.027	2,054
厚真	去勢	21	781,095	1.245	2,202
	雌	23	658,957	1.031	2,084
穂別	去勢	13	729,692	1.194	2,156
	雌	13	633,385	1.011	1,976
追分	去勢	6	770,167	1.131	2,340
	雌	1	644,000	0.991	1,952
とまこまい 広域	去勢	95	738,758	1.146	2,206
	雌	66	652,909	1.022	2,044
胆振管内	去勢	171	756,146	1.149	2,257
	雌	110	649,473	1.019	2,051
市場計	去勢	759	745,772	1.128	2,281
	雌	512	639,574	1.006	2,085

北海道地方 3ヶ月予報

予報期間/2月~4月

令和2年1月24日 札幌管区気象台発表

気温予想

3ヵ月	低20%	並30%	高50%
2月	低20%	並30%	高50%
3月	低20%	並40%	高40%
4月	低20%	並40%	高40%

降水量予想

3ヵ月	低30%	並40%	高30%
2月	低30%	並30%	高40%
3月	低30%	並40%	高30%
4月	低30%	並40%	高30%

- 北海道日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が少ないでしょう。北海道オホーツク海側・太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、北海道日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。
- 北海道日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。北海道オホーツク海側・太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、北海道日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。
- 北海道日本海側・オホーツク海側では、天気は数日の周期で変わります。北海道太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

出典: http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/101_10.html
気象庁ホームページ/防災情報/季節予報/北海道地方3ヵ月予報より

平成30年産 一般米共計勘定収支内訳

○入金

(単位:円/俵)

区分	販売先	金額	販売俵数	1俵あたり単価
一般米	ホクレン	1,689,160,463	109,578.5	15,415
	JA店舗	127,315,024	8,766.0	14,524
	商社	164,739,642	10,556.5	15,606
合計		1,981,215,129	128,901.0	15,370

○精算

(単位:円/俵)

区 分		金 額	精算俵数	1俵あたり単価
一般米		1,885,054,729	128,901.0	14,624
控除	米需要拡大・需給安定対策拠出金	0		0
	手数料	39,701,508		308
	保管料	35,318,874		274
	入出庫料	12,890,100		100
	検査料	6,960,654		54
	保険料、DNA、他	1,289,010		10
	計	96,160,146		747
合 計		1,981,214,875	128,901.0	15,370

合計残余金	254		
-------	-----	--	--

※残余金については、農産雑収益に繰り入れ。

平成30年産 JA直販米精米勘定収支内訳

○入金

(単位:円)

項目	金額	摘要
販売金額	131,939,933	うるち米8,766俵・もち米39.5俵
合計	131,939,933	

○支出

(単位:円)

項目	金額	摘要
原料代金(買入数量8,805.5俵)	123,360,740	うるち米8,766俵・もち米39.5俵
保管料	2,500,860	
精米・色選料	119,688	
包装資材	439,514	
諸経費	1,021,607	消費者協会・店舗助成
合計	127,442,409	
残余金	4,497,524	共計勘定へ繰り入れ

平成30年産 大豆 共計精算報告

○共計精算数量

(単位:俵)

品種	区分	入庫数量				
		1等	2等	3等	特定加工用	合計
スズマル	小粒	4,447.0	173.5		113.0	4,733.5
	極小粒			815.0	87.0	902.0
	(小粒)			95.0		95.0
	(小粒・極小粒)				5.0	5.0
ユキシズカ	小粒	2,706.0	1,328.5	585.0	16.0	4,635.5
	極小粒			1,395.0	25.0	1,420.0
	(小粒)			22.5		22.5
	(小粒・極小粒)				154.0	154.0
ユキホマレ	大粒		9,360.0	2,597.5	570.0	12,527.5
	中粒			1,802.5	103.5	1,906.0
	(小粒)				327.0	327.0
トヨムスメ	大粒		454.5		0.5	455.0
	中粒			48.0	1.5	49.5
	(小粒)				24.5	24.5
合計		7,153.0	11,316.5	7,360.5	1,427.0	27,257.0

○精算単価

(単位:円/俵)(消費税込み)

品種	区分	共計精算単価			
		1等	2等	3等	特定加工用
スズマル	小粒	10,534	10,294		9,814
	極小粒			9,814	9,574
	(小粒)			9,100	
	(小粒・極小粒)				8,860
ユキシズカ	小粒	14,726	14,486	14,246	14,006
	極小粒			14,004	13,764
	(小粒)			13,290	
	(小粒・極小粒)				13,050
ユキホマレ	大粒		7,880	7,640	7,400
	中粒			7,402	7,162
	(小粒)				6,446
トヨムスメ	大粒		8,186		7,706
	中粒			7,704	7,464
	(小粒)				6,748

○精算金額

(単位:円)(消費税込み)

品種	区分	共計精算金額				
		1等	2等	3等	特定加工用	合計
スズマル	小粒	46,844,698	1,786,009		1,108,982	49,739,689
	極小粒			7,998,410	832,938	8,831,348
	(小粒)			864,500		864,500
	(小粒・極小粒)				44,300	44,300
ユキシズカ	小粒	39,848,556	19,244,651	8,333,910	224,096	67,651,213
	極小粒			19,535,580	344,100	19,879,680
	(小粒)			299,025		299,025
	(小粒・極小粒)				2,009,700	2,009,700
ユキホマレ	大粒		73,757,570	19,845,488	4,218,552	97,821,610
	中粒			13,342,105	741,267	14,083,372
	(小粒)				2,107,842	2,107,842
トヨムスメ	大粒		3,720,537		3,853	3,724,390
	中粒			369,792	11,196	380,988
	(小粒)				165,326	165,326
合計		86,693,254	98,508,767	70,588,810	11,812,152	267,602,983

さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

秋まき小麦の 高収量要因と寒害に ついて

○昨年度の高収量となった要因について

東胆振地域において、昨年の秋まき小麦は平年比140%（普及センター坪刈り調査）と高収量となり、品質も良好でした。その要因として考えられるのは、

①は種期が早く越冬前の葉数は、概ね5.0葉以上の生育量が確保されたため、越冬状況が良好となり、ほ場内での生育ムラが少なかった（写真1,2）

②4月～5月の日照時間は平年比145%と長く、養分が蓄積された（図1）

③出穂期以降の6月も平年比113%の日照時間が確保された（図1）

④4～7月の降水量は平年比82%と少なく、赤かび病等の病害虫が少なかった 等が挙げられます。現在の小麦は、越冬前に十分な生育量を確保しているほ場が多く見られます。今後は、生育に応じた適正追肥、適期防除で安定多収を目指しましょう。



写真1 越冬状況良好なほ場



写真2 根張り良好な越冬後の小麦

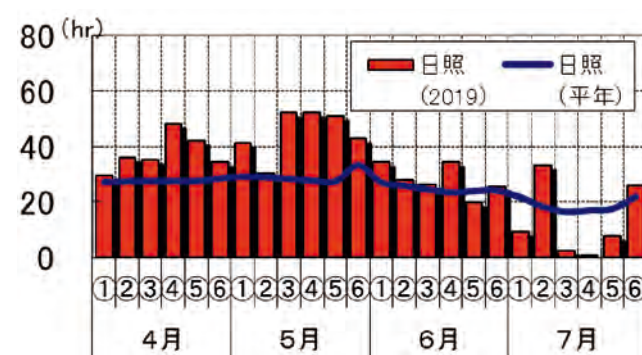


図1 4～7月の半月別日照時間

○冬損対策について～極端に早い融雪剤散布は避けましょう!!～

今冬は積雪が少なく、冬損被害が心配されます。しかし、越冬中の小麦は耐寒性が向上しており、厳冬期は-20℃程度まで生存可能です。むしろ注意すべきは、越冬中の消耗により耐寒性が弱まる3月下旬以降の低温です。そのため、積雪が少ないほ場では、融雪剤散布による、極端に早い融雪は回避しましょう（写真3,4）。

写真3 右:早期の融雪で冬損被害を受けた小麦
左:融雪剤無散布のため無被害だった小麦

写真4 冬損被害を受けた小麦

ワンポイント営農情報

令和1年度にクリーン農業係でサポートした各種試験事業の取組概要を紹介します。紙面の関係で試験の詳細は掲載できませんが、詳しくは各生産振興会総会やJAホームページで報告する予定です。

令和1年度施防協試験一覧

水 稲	
水稲除草剤	判定
エンペラー豆つぶ	A
ベッカク豆つぶ	B
ヘルーガ豆つぶ	B
カウントダウンジャンボ	A

判定基準 A→ 0～10%
(残草率) B→11～20%

畑 作		
肥効調節型肥料	作 物	判定
Dds083	大豆・小豆	増収
BBS880CR	飼料用またはデントコーン	同等
せひラク BBS517CR	てん菜	同等
せひラク BBS605UF		同等

判定基準→慣行(基肥+追肥)との比較 ※総窒素量は同じ

赤かび病防除	作 物	判定
バラライカ	麦 類	同等

判定基準→慣行(シルバキュアフロアブル)との比較

試験総評	水稲除草剤	水稲除草剤では3成分薬剤のほうが除草効果が安定します。また、代かきから散布を10日以内にすることで取りこぼしが減少します。
	肥効調整型肥料	肥効調整型肥料は慣行と同等の収量または増収結果となりました。追肥作業に係る中間経費を削減できます。
	赤かび病防除	2回調査を行いました。慣行と比べ赤かびの発生は同程度でした。また、バラライカを使用することで葉枯れ症対策にもなります。

来年の米づくりに向けたワンポイント シリーズNO.4

近年、春先が極端な天候となり、健全な苗質確保が早期の分けつに大きく影響している例が多く見られます。もう一度、育苗管理を見直し、良質米の安定生産へのスタートを切りましょう。

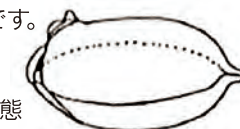
1 発芽を揃えるための浸漬条件

乾燥した粳は十分に吸水させることで発芽の準備が整います。特に、水量と水温が重要となり、水量は容積比で、乾粳 1:水 2(乾粳10kgに対し、水40リットル)が目安です。浸漬温度と日数は、表1を目安に行いましょう。温湯消毒種子では、浸漬温度で出芽に差が出やすいので注意が必要です。

表1 水温と吸水日数の関係

浸漬水温	浸 漬 日 数		摘 要
	通常年	種粳の休眠が深い年	
10℃	7 日	9～10 日	発芽の不揃いが懸念される
11～12℃	5～6 日	7～6 日	良好な発芽に最も適している
13℃	4 日	5～6 日	芽の伸びすぎが懸念される

図1 ハトムネ状態



2 発芽の目安

催芽温度は30～32℃で24時間が目安ですが、袋ごとに芽切りの状態(ハトムネ状態7割以上)を確認しましょう。特に、芽の部分(胚乳)が膨らんでいない粳が多い状態では、良好な苗立ちにさせることが難しくなります。

3 播種から出芽までの管理

出芽を揃えるには、適度な水分と温度を保つことが重要です。二重被覆やトンネルでの保温が有効です。また、水はけの良い置床の場合、出芽揃いまでかけ土に乾きが入らないよう設置後の灌水を十分に行い、必要に応じて出芽が揃う前でも灌水を行って下さい。



写真1 設置後の被覆状態

JA北海道中央会



JAグループ北海道は、「令和2年産の畑作物作付に向けた10のメッセージ」と「畑作物のGAP」についてパンフレットを作成しました。

10のメッセージは、①輪作体系の確立、②需要動向を踏まえた生産、③農業諸制度の堅持の3つの観点から、令和2年産の作付にあたって参考としてほしい情報をわかりやすく伝達することを目的としています。畑作物のGAPについては、令和元年度は一部生産者協力のもとプレ実施し、課題や問題点を整理し、令和2年度より本格実施する方針としています。詳細な内容については、今後、連合会やJAを通じてお知らせいたします。10のメッセージや畑作物GAPの具体的な内容については、QRコードよりパンフレットをご確認ください。



JA北海道信連



JAバンクのキャラクター「よりそう」が、協同組合間連携の取り組みの一環として、初めてコープさっぽろ・ろうきんのキャラクターとともに、11月に札幌市内の保育園を訪問しました。また、12月には、「よりそう」と「ちょりす」が、岩見沢市、滝川市、旭川市の幼稚園を訪問し、子供たちと交流を深めました。

地域の皆様に、JAバンクをより身近に感じてもらえるような活動に取り組んでいます。



JA共済連北海道



JA共済連北海道では、2月4日から開催される雪と氷の祭典「第71回さっぽろ雪まつり」の大通り7丁目「HBCポーランド広場」におきまして、令和元年度 JA共済 全道小・中学生交通安全ポスターコンクールの入賞作品64点を展示いたします。

JA共済連北海道は交通事故のない社会の実現に向けて、多くの観光客の方々にも交通安全の大切さを理解していただき、事故の防止につなげていきます。

(写真は、昨年の会場の様子)



ホクレン



ホクレンは、北海道ぎょれんと共同制作したカタログギフト「北の海と大地のギフト」を販売しており、旬の北海道産農畜産物・水産物ならびに、その加工品など北海道産食材の魅力をお届けいたします。

カタログを贈られた方が気に入った商品を好きなタイミングで注文できます。

価格は1冊5500円(消費税込み、送料除く)。詳しい内容は「ホクレングリーンネットショップ」のWebサイトで閲覧いただけます。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

紙面をリニューアルし、より読みやすくさらに健康に役立つ医療・健康情報を発信しております。10月発行分にはプレゼント付きアンケートもございますので是非応募にもチャレンジしてみてください。



JA日誌

2020 2月

16日(日)

17日(月)

第1回企画会議、民法改正研修

18日(火)

もぎたて市部会 第12回通常総会
Aコープ穂別懇談会

19日(水)

地区別組合長会議(札幌)、
ホクレン担い手研修水稻部門～20日(札幌)

20日(木)

第1回理事会

21日(金)

酪農働き方セミナー(金川牧場)

22日(土)

たまや米販売推進～23日(神奈川)

23日(日)

24日(月)

25日(火)

第1回管理委員会及び生産委員会

26日(水)

第2回役員推薦会議

27日(木)

厚真支所 米・畑作てん菜合同総会
室蘭開発建設部との懇談

28日(金)

第1回経営指導委員会及び第2回理事会

29日(土)

2020 3月

1日(日)

2日(月)

みのり監査法人及び監事監査～6日

3日(火)

早来支所米・畑作3振興会等合同総会

4日(水)

安平地区大豆集出荷貯蔵施設 竣工・引渡(予定)

5日(木)

肉牛市場、ウボバイ開業50日前イベント

6日(金)

乳牛市場、常勤理事・監事意見交換会

7日(土)

8日(日)

9日(月)

第19回 広域女性部通常総会

10日(火)

JA北海道中央会総会(札幌)

11日(水)

第19回 広域青年部通常総会

12日(木)

13日(金)

白老生産改良組合総会、第2回企画会議

14日(土)

15日(日)

道央圏農業新技術発表会開催について

令和元年度及び近年の研究成果から、道央圏に適応する新しい品種や栽培技術などの研究成果に関する新技術を広く普及定着させるため、農業者をはじめ関係者に発表する場として「道央圏農業新技術発表会」を以下の通り開催致します。

- ①主催 地方独立行政法人北海道総合研究機構 中央農業試験場
②後援 胆振総合振興局、厚真町、JAとまこまい広域
③日時 令和2年2月26日(水) 13:30～16:30(開場13:00～)
④場所 厚真町総合福祉センター 大集会室 厚真町京町

春季組合員懇談会のお知らせ

令和2年度の春季組合員懇談会を3月17日～19日にかけてJA管内の各会場で開催いたします。

ご多忙中とは存じますが、多くの組合員の皆様のご参加をお待ちしております。

ご不明な点等のお問い合わせにつきましては、お近くの事務所までご連絡下さい。

職員異動 1月31日付 退職 お疲れ様でした

販売企画部 明河 新一 昭和59年4月1日入組

旧穂別農協営農部営農課係、同農畜産課係、同営農課係、同農業技術推進課係、同営農販売課主任、同営農振興課課長、JAとまこまい広域穂別支所営農課長、同穂別支所支所長、同販売部部長、同農業振興本部副本部長、同販売企画部部長を務める。

厚真支所 佐藤 大暉 平成30年4月1日入組

厚真支所営農課営農係を務める。

お悔やみ 謹んでご冥福お祈りいたします。

月日	地区	氏名	享年	月日	地区	氏名	享年
12/16	厚真町	中村 典路さん	53	1/19	厚真町	木村 保さん	84
12/17	むかわ町	高田キヌエさん	93	1/27	むかわ町	谷口 弘さん	93
12/25	安平町	横井 靖夫さん	79	1/31	安平町	佐藤 雪子さん	83
1/7	安平町	清水 吉一さん	85	2/2	厚真町	横井 昌一さん	86
1/12	安平町	品川 一夫さん	87				

前月の12月・1月合併号の掲載内容に誤りがございました。正しくは以下の通りです。お詫びして訂正致します。

1ページ 下段 とまこまい広域農業協同組合【役員】
穂別地区理事 → 穂別地区担当理事
7ページ 左上 写真キャプション
鈴木実行委員長 → 福原功 苫小牧市副市長